

会 報

平成20年1月15日

てんりゅう



峠の国盗り綱引き合戦

毎年秋のひと時に、静岡と長野の県境をかけて浜松市天竜区水窪町と飯田市南信濃の綱引き合戦が兵越峠国盗り公園で行われます。二県にまたがる古道は「塩の道」「秋葉信仰の道」であり、戦国時代には武田信玄が大軍を侵攻させた「戦略の道」でもありました。道は峻しく近くには足神神社も祀られています、現在は早期完成をめざして「三遠南信高規格自動車道」の建設が進められています。

会報てんりゅう 第90号

(社)天竜建設業協会 浜松市天竜区二俣町鹿島491-5 ☎(053)926-1562
編集・発行 広報委員会 題字 秋山錠介 FAX (053)925-6468
電子メールアドレス tenryu@aqua.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.tenkenkyo.net/>

社団法人 天竜建設業協会

会長 秋山錠介



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、お健やかに新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

依然として建設業界を取り巻く情勢は厳しく将来への展望が開けない現状であります。

特に当北遠地区は浜松市の政令市移行や鈴木新市長の誕生等で行政環境の変化も多大であり、我々建設業界も公共工事の発注条件等で大きな影響を受け、これまでの長い間の慣行や対応が通用しなくなりしました。

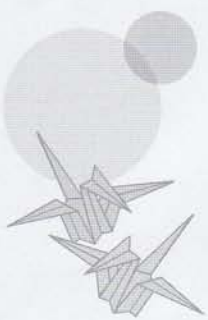
一般競争入札方式の拡大、総合評価方式の拡充や入札ポンドの導入等の新しい流れを我々は素直に受け入れ、新しい建設業界のあるべき姿を協会員一丸となって取り組む時期であります。

県協会本部も伊藤会長の「県建

協新生元年に向けて」の提言を受け「社会のために」、「地域のために」、「会員のために」を柱とした県協会改革のアクションプログラムを新年度から行動して行きます。

私たちの天竜建設業協会は、昭和28年10月に静岡県建設業協会浜松支部から分離独立して以来、一貫して当北遠地区の社会資本の整備に携わりながら、地域の雇用の場として重要な位置を保つと共に、災害時の応急復旧作業には先頭にたつて重機と機動力をもってあたり、地域の安全と安心に貢献してきたと自負しています。

このまま建設業界の疲弊が更に加速することは、地域の安全が危うくなるだけでなく地域の存在も危ういと考えなければなりません。会員皆様にはこれまでにない厳しい時期ではありますが、伝統と団結力のある我々業界の誇りを持つて困難に立ち向かうではありませんか。



年頭挨拶

浜松市

市長 鈴木康友



新年あけましておめでとうございます。皆さまには、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、浜松市にとりまして、政令指定都市への移行という、非常に大きな節目の年となりました。私自身も市長就任後、「ひとつの浜松による一体感のあるまちづくり」を実現するため、全力で取り組んでまいりました。

私はマニフェストにおきまして、「こども第一主義」「暮らし満足度の向上」「浜松改革元年」の3つを政策目標として掲げました。その実現のため、昨年8月には、その道筋を示す「マニフェスト工程表」を公表したところでございます。

そして本年は「政令指定都市・浜松」の基盤を確立する重要な年として、都市ビジョンとして掲げ

た「市民協働で築く、未来へかがやく創造都市・浜松」を目指し、マニフェストへの対応をはじめ、メリハリのある資源分配により、実効性のある市政運営に取り組んでまいります。

また、厳しい財政状況の中で、限られた財源を有効活用するため、歳出の徹底的な見直しを行うとともに、市民がその効果を実感できる必要な事業への選択と集中を図ってまいります。

来年、平成21年3月には富士山静岡空港が開港し、同年9月には「浜松モザイクカルチャー世界博2009」がフラワーパークを会場に開催され、国内はもとより、世界30か国から花と緑の造形作品が展示される予定です。浜松という都市ブランドを全国、そして世界に発信する絶好の機会ととらえ、必要な準備を進めてまいります。市民の皆さまが夢と希望を持って「政令指定都市・浜松」を目指してまいりますので、市政への積極的なご参加と、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



「県建協新生元年」の実現に向けて

「社会のために」「地域のために」「会員のために」

平成19年の2月、静岡県建設業協会の伊藤孝会長は業界を取り巻く情勢、環境は一向に好転の兆しは見えず、深刻化する一方でありこうした状態が続くなら、会員各社や協会の疲弊はますます進行していく、会員の意識改革を含めて思い切った改革が必要と県建協新生元年に向けての提言をした。

改革アクションプログラム 決定の経緯

同年2月15日に開催された臨時常任理事会は、会長の提言を了承し改革ワーキンググループを設置し10人の委員を選任した。改革WGは、同年5月28日を1回目としてワーキング活動を

重ねその検討結果を、「中期的（3年後）な県協のあるべき姿」として同年10月に「県建協新生元年」の実現へをまとめ常任理事会に報告した。

報告を受けた常任理事会は、平成20年度以降における県建協としての実施事業、体制等について検討を加え提案に対する考えを整理し今後の県建協改革のアクションプログラムを作成して同年11月27日に発表、各地区協会の意見を調整し同年12月18日の常任理事会で決定した。

改革アクションプログラムの 主な内容

平成20年度を実践の年、21年度は改編の年、22年度は目標達成の年とした改革アクションプログラムの主な内容は次の通り。社会に貢献することを第一義に公益性を重視した「社会のた

めに」は災害対策基金の創設や後継者の育成事業の実施。「地域のために」は災害活動の県民等との連携強化や環境美化運動の実施。見通しのきかない時代の中で会員企業への的確な情報伝達をする「会員のために」は安全パトロールの実施や陳情・要望活動の充実等。

具体的な事項では県建協は新公益法人法の公益社団選択を前提とした事業展開する、事務局体制の効率化により職員の削減や関係団体の経理事務の統合化、会館空きスペース等不動産の活用を図る。

役員や委員会制度では理事会定数削減や評議員制度の廃止、委員会の統合休止を進める。地区協負担金については、平成19年度の4900万円を20年度3000万円、21年度2500万円、22年度2000万円に減額する。等々で平成21年度の予算編成から直ちに実施される。

建設ギャラリー

平成18年度 道整備交付金下平山線工事

1. 施工箇所 浜松市天竜区龍山町下平山地内
2. 工期 着手／平成18年12月26日
完成／平成19年 9月21日
3. 発注者 西部農林事務所 天竜農林局 林道課
4. 施工者 乗松建設株式会社 代表取締役 乗松敬貢
5. 工事概要

林道工	延長96m 幅員4m
軽量盛土工	現場発泡ウレタン工 396m ³
補強土壁工	ジオテキスタイル 146.4m ²
擁壁工	L型プレキャスト 10m
法面工	種子吹付け 255.6m ² モルタル吹付 231.2m ²
排水施設工	L型側溝 96.1m
路盤工	コンクリート路面工 455.8m ²

本工事現場は平成13年度の林道開設工事中に崩壊した為谷川に道路線形を移動し現場発泡ウレタン工法により道路を施工しました。崩壊法面側には補強土壁、その上部に押え盛土を施工し法面の安定を図りました。

この工事により、林道下平山線の全線開通となりました。





新しけりや 良いってもんじやない

M・S

「ALWAYS三丁目の夕日」の大ヒット、そしてその続編が最近公開され私も観に行つて来ました。昭和30年代の情景がCGによって再現された都電・ミゼット・建設中の東京タワーなど映像を見ているだけで涙が出てきてしまうような作品です。昔の広告看板などの小物は全国から集めた本物を使っているそうです。

当時のことが少しでも思い出にある方はぜひ一度観にいつてください。

最近では昔懐かしい駄菓子スパーで売っていたり、古材を使った店舗や古民家を再生したりと我々の身近にも「古き良き時代！」のものがけっこう見うけられツイツイ足を止めてしまう次第です。(オヤジ！懐かしがってるだけじゃだめぞ！)

我々建設業界は、IT・デジタル化が進み「人間味」とか「人情」とかが失われつつあります。地域のことを思い、業界のためと先人たちが汗水たらして築き上げたものは無視され、新しいものが採用されがちです。今一度、業界の歴史を見つめ直

し良い習慣・良い制度は残し、新しい事もバリバリ受け入れられる体質でありたいと思います。
夕日もいいけどアサヒはもつとい



観音山の日の出

かんとくさん



天竜区役所
まちづくり課
大石 正典

旧天竜市時代より十八年目となり、現在は天竜区役所まちづくり課に配属されました。自分にとって勉強の日々が続く、新たな気持ちで業務に取り組んでおります。

平成十九年度より政令指定都市「浜

松市」が誕生し、公共事業を取り巻く情勢が大きく変わった今年、自分の担当する工事が少額化し、予算配分も減少の一途を辿っており建設業者の皆様には大変ご苦労の多い時期であると認識しております。北遠という道路情勢の厳しい広範囲な地域にとって、道路整備やその維持管理は、まさに生活に直結する大事な事業であります。今後この地域の為に微力ながら頑張っていきたいと思えます。また、建設業者の皆様と良好な関係を築き、安心して施工ができる監督を目指し努力していきたいと思えます。

ワンデーレスポンス

最近のキーワード

発注官庁が、施工業者からの問い合わせに1日(24時間以内)で回答すること。

昨年、国土交通省が各地方整備局へ「工

事監督におけるワンデーレスポンスの実施について」の通達を行なった。

この通達の趣旨は、「発注者は受注者からの質問、協議への回答を基本的にその日のうちに返す」というもの。

これは、公共工事が減少する中、人件費等の変更に際により施工単価も下がるなど厳しい状況下で、改善を図るため生産性の向上に視点を置き考えられたもの。生産性の向上に最も効果を発揮するものとして、工事短縮を取り上げ、それを実現するための方法として、実施されたのがこの「ワンデーレスポンス」の通達。





私の安全パトロール日誌

—事故原因を考える—

安全指導員 加茂 恒夫

建設業で働く人は全労働者の10%ぐらいであるが、労働災害の死亡事故では40%を占めていて、中でも多いのが墜落事故であります。ある統計では、事故の際70%近くが安全帯を腰に巻き付けていたが、そのうち80%がフックを引っ掛けていなかった。ゆえに、不安全な状態の物と不安全な行動をする人が出会うことにより、災害が発生します。施設から不安全な部分を取り去れば災害の82%がなくなり、作業員が不安全な行動を止めれば災害の94%がなくなります。そして施設から不安全部分を取り去り、作業員が不安全な行動を止めれば災害の99%はなくなります。

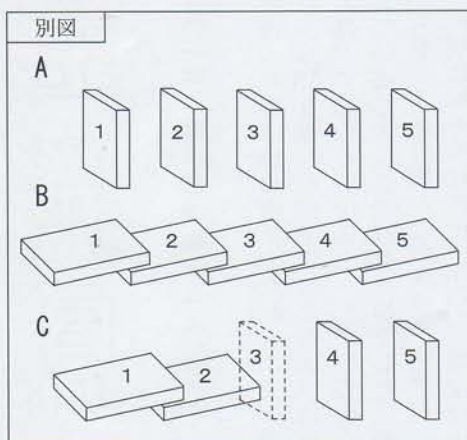
ハインリッヒは半世紀に渡り55万件の災害データを調査し、いわゆるハインリッヒの「300:29:1」法則を1931年に発表しました。

死亡を含む重大災害が1件発生する場合、その陰には29件の軽傷事故が起きており、更に300件の潜在的な事故、いわゆるヒヤリ・ハット事故が発生していると言います。またハインリッヒは、ヒヤリ・ハット（ニアミス）を含む全ての事故の88%は不安全な行動、10%が不安全な設備によるとしています。アメリカの保険会社のフランクE・バードは、1969年に297社のおよそ175万件の事故を分析し、1件の重大事故に対し、10件の軽傷事故、30件の物損事故、600件のニアミスがあると言っています。また1974年にタイとパーソンはイギリス産業の100万件の事故を調べ、重大事故1件に対し、10件の軽傷事故、50件の応急措置、80件の物損事故、400件のニアミスと報告しています。別図は、アメリカの保険会社の研究部長ハインリッヒのドミノ理論を示します。A図において、(1)社会的または家庭的欠陥、(2)個人的欠陥、(3)不安全な状態または行動、(4)事故、(5)災害を表します。いずれかが倒れると、B図のようにドミノの連鎖反応が起こり、災害になります。C図のように、(3)不安全な状態か行動を取り去れば事故は発生し

ません。

それでは不安全な行動とは。まず、作業員は通常個人保護具(PPE)を身に着けますが、不安全な行動はPPEの無視に始まります。不安全な行動を矯正するには、安全指導員が絶えず現場パトロールをして指導します。しかし、実情はどうですか。建災防で行う月に一度の安全パトロールと、自社のパトロールぐらいではないでしょうか。作業員が不安全であることを知らずに不安全な行動を行うのは教育、訓練すれば解決出来ます。問題は、してはならないことを知っていないながら行う場合です。現場の雰囲気として規則が守られず、自分だけ守るのは格好が悪いと思う。今時の学生みたいで、これは、全員が納得して規則を守る風土を作るしか方法はありません。それから、元の工具で間に合わせたい、遠回りは面倒だ、安全帯を使うのは面倒だと目先のことだけを考え、手を抜く場合があります。定められた規則や手順を省略して得られる利益よりも、手抜き事故の損失の方が極度に大きいことを考えさせる訓練が必要です。KYT(危険予知訓練)はその方法です。

最後に、3Kと呼ばれて久しい建



設現場ですが、作業場所は屋外でしかも厳しい環境のもとに行われることが多く、作業場所も作業の種類も毎日変化して、材料や機械も毎日入れ替わったり又、工期に追われ、安全受注が増えてきて、しわ寄せが安全対策の手抜きになり勝ちです。しかし、死亡すればそれで一生を終わります。家族は生活に困り、親戚も迷惑します。工事中に事故が起ければ工事は直ちに中止し、再開後も交代要員の手配や工事の遅れのために大きな影響を残します。雇い主は治療費、入院費、補償費を支払い、それこそ会社の存続にも多大な影響を与えかねない。今こそ不安全な行動を無くし、ヒヤリ・ハットを無くして少しでも災害や事故を減らそうではありませんか！



水窪地域自治センター
地域振興課
山田 美里さん

私は、合併前の水窪町役場の時に採用されたので今年で四年目になります。昨年までは

体育館に勤務し、スポーツ関係を担当していましたが、今年から庁舎に異動し、同報無線の放送や自治会関係などを担当しています。仕事にも慣れてきましたが、毎日の業務を通じて、まだまだ水窪について知らないことが多いと気づかされました。もっと勉強して知識を深めたいです。

私生活では、水窪に住んでいる同世代の人たちとチームを作ってスポーツをしたりして楽しく過ごしています。

これから人との関わりを大切にし、信頼される職員になれるよう頑張っていきたいです。

My Family



天龍土建工業株式会社
鈴木 芳典

我が家には小学2年の長男（凱人）と幼稚園年中さんの長女（里桜）の二人の子供がいます。

二人共のんびりした性格ですが、里桜は特にマイペース。どこにいても、一人でいても好きなことをして楽しめる子です。食べることも大好きでナイショで何か食べていると「お味見せて♡」と笑顔で近寄ってきます。

凱人はサッカーが大好きで、服もゲームも勉強

強道具もポテトもサッカーづくしのサッカーおバカさん。週3回、スクールと少年団でサッカーをしています。少年団に入団したことで我が家の週末はサッカーばかりですが、夫婦共に体育会系なのでその状況も楽しくて気が付いたら里桜も入団して、父親はコーチになっていました。

凱人の優しい性格はサッカーでは今イチ役立たず、見ている方がイライラしたりしています。本人がサッカーが好きだと言う気持ちをずっと持ち続けてくれればいいのか？と思いつつも、なんとかもつとがんばってほしくて、励ましたり、怒ったり、一緒に喜んだり、どうせやるなら活躍してくれよと

親「あのプレーはこうした方がいいんじゃない？もつと走れるし!!」

子「だったらお父さんとお母さんがやってみたら（怒）!!」…ゴメンなさい

おバカさんは私達のようなです。

お宝発見

（株）正久工業 代表取締役 正久 晃

シリーズ第3回 カメラ

カメラに興味を持ったのは13歳頃だったから、大分昔の事になる。あれから50数年、私の手にしたカメラはその時代の思い出となつて私の心の中に……。写真のカメラは現在所持しているもの（この写真を撮影した一台を除いて）ですから私の手から離れたカメラも数多い。

『お宝発見』の原稿依頼を受けたのですが、お宝はカメラではなく、本当は写された作品であり、定点撮影を続けている故郷（春野町気田）の元旦、時間指定の鳥瞰写真である。

昭和39年1月1日、10時、私の「お宝作り」のスタートである。今年で44枚の作品が出来た。撮影したカメラも35mmから、現在の4インチ×5インチ判へと、作品の出来映えにも変化が顕れている。

半世紀50年の作品が完成したら、一冊の写真集『故里の50年』に思っている。私の『お宝』となるだろうから、それまで、暫く待つてほしい。

